

# 空港向けなど 応緑 高品質鉄製ゲート拡販

## 24年4月期 売上高10億円目指す



大型鉄製門扉など総合ゲートメーカーの応緑（本社・姫路市、社長・河越祥郎氏）は、同社独自のゲート製品の拡販を進める。今年4月に創業50周年を迎えることを契機にゲート事業の拡大を図っていく。

同社にはゲート事業

部のほか、ハウジング事業があり、24年4月期の売上高について20年4月期比で2・5倍



岩国空港のエアポートゲート、長さ103m、重量33トンの超大型ゲート

となる10億円にまで拡大する方針。拡大の中心はゲート事業として、同事業で同比3・5倍の6億5千万円の売上げを目指している。

同社は本社近隣に土山工場があり、ここでゲート製品を製作する。最大で年間100台の製作が可能だ。今回、同社は創業50周年を記念し、独自ゲート製品を「オンリーONE商品」として、シリーズ化した。シリーズ

化したのは、空港向けの大型電動門扉「エアポートゲート」、連結・分離可能門扉「セパレートゲート」、勾配に対応した門扉「スロップゲート」で、現在は木製ゲートの「ウッドイーゲート」を開発中。さらに時期は未定だが、遠隔化操作および自動開閉で入退場管理ができる「DXゲート」、データセンターや重要施設向けで不測の車両侵入を防ぐ「ガーディアンゲート」、ゲリラ豪雨や河川氾濫に対応する止水機能付きの「シーリングゲート」をラインナップに加える予定だ。

新規案件だけでなく、同社はメンテナンス需要も今後拡大すると見ており、同社独自のレール補修技術やホイールチェンジ技術などで簡易メンテができるだけでなく、手動から電動化へのアップグレードにも対応している。（5面「流通加工」版に関連記事）

現しており、他社製のレール施工精度は約5ミリだが、同社はこれを誤差0・5ミリにまで高めている。そのため、門扉重量が500キログラム度であっても手動開閉力は5キログラムに収まっている。こうした操作性・耐久性などが評価され、空港・データセンターなど重要施設において、同社ゲートの採用が増え始めており、さらに他社が参画できない事例も出始めている。

## 中型・大型鉄製ゲートの応緑

# 独自製品をシリーズ化

鉄製など総合ゲートメーカーの応緑（本社・姫路市、社長・河越祥郎氏）は創業50周年を記念し、独自のゲート製品をシリーズ化した。近年、スチールゲートは専門メーカーに依頼されるケースが増えており、特に中型以上の場合、ゲートの電動化や遠隔操作などが鉄工所では対応できず、また大型扉も製作できるメーカーがほとんどないのが現状だ。同社は中型・大型ゲートを専門的に製作・施工しており、多様な中大型ゲートのニーズに応えられるよう、商品ラインアップの拡充を進めている。今回シリーズ化したゲート製品を紹介する。

### エアポートゲート

同社の独自技術を活用した空港専用の超大型電動ゲート。航空機専用ゲートは航空機が通過するたびにゲートの開閉が必要であり、また航空機がゲートを通る際には左右に法定距離の確保が必要になる。また、航空機用ではない空港設置ゲートでも通過車両数が非常に多く、大阪国

際空港ANA給油施設では1日の開閉回数が250回以上にもなるなど、極めて頻繁な開閉作業が生じる。空港ゲートは超大型かつ使用頻度が極めて多いのが特徴となる。

同社ではこうしたニーズに応えるだけでなく、いかなるときでもゲートが開閉できるようバックアップモーターの設置だけでなく、停電で動力が消失しても開閉できるよう、ハ

ード全開時の間口が広すぎるようにした。場合、通行を管理する守衛室などから離れたところを車両が走行することになり、勾配のある土地にゲートを設置する場合は、重量物であるゲートが自重で加速してしまう危険性があり、また坂を上る方向に動かすには電動化を必要が生じていた。同社はこれを解消するため、スロープブレーキシステムを開発。坂を下るほうに開閉する場合は、ギア比によって簡単に操作できるようにしている。

ンドル操作によって手動でも超大型扉を操作できるようにしている。

### セパレートゲート

通常のゲートはその幅を施工後に容易に変更できない。そのため、ゲ

幅のみを開閉し、残すよう調整でき閉する場合、ゲートの加速を抑制し、自動にブレーキがかかるようにした。坂上方向に開閉する場合は、ギア比によって簡単に操作できるようにしている。

## 商品ラインアップ拡充 多様なニーズに対応

### スロープゲート

自動にブレーキがかかるようにした。坂上方向に開閉する場合は、ギア比によって簡単に操作できるようにしている。



三沢空港のエアポートゲート①、川重明石のセパレートゲート②、祇園辻利のスロープゲート